

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	健全に財政運営がされ、税金の無駄遣いがない	
施策名	無駄のない健全な財政運営を推進する	No.56

年度	平成28年度
責任部長	総務部長
主担当課長	財政課長
関係課	行政課、企画政策課、納税課、市民税課、資産税課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値						目標値
		実績値						5年後
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	
経常収支比率(%)	↘	82.2	84.5	86.2	82.8	83.2	80.9	80.2
実質公債費比率(3か年平均)(%)	↘	6.2	5.6	5.0	4.6	4.2		6.0
税金の無駄遣いがないと思う人の割合(%)	↗	16.4	14.7	18.5	17.7	16.2	35.5	24.3
		35.5	36.6	36.8	37.8	42.7		30.9

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済で弱さがみられており、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。景気動向としては、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。(平成28年6月・内閣府月例経済報告より)

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	A	経常収支比率については、経常経費の財源となる地方税、地方消費税交付金の増加により、歳入全体が増加したものの、自然増した扶助費、他会計繰出金等の経常経費に充当する一般財源の増加の割合がこれを上回ったため、比率が悪化した。実質公債費比率については、地方債の償還が順次終了していることから改善傾向にある。税金の無駄遣いがないと思う人の割合はさらに上昇しており、市が行う事業に対する市民の理解が高まりつつある。
------	---	---

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。		
評価			
次年度の改善計画			

市民からみた計画の進捗状況

□A ■B ▨C

- ・A判定(改善傾向) 10%
- ・B判定(停滞) 71%
- ・C判定(悪化傾向) 19%

